

府中市における総合戦略の方向性について

1. 国の総合戦略の方針

基本目標 1：地方における安定した雇用を創出する

●現状・課題

- ・2013年の転入調査状況を見ると、東京圏では10万人の転入超過となっており、その大半は10代後半～20代の若者
- ・東京圏への人口移動は、経済・雇用情勢の格差が影響しており、地方における雇用創出が東京一極集中是正につながる

●基本目標

- ・地方において若者向けの雇用をつくる。2020年までの5年間で30万人分

基本目標 2：地方への新しいひとの流れをつくる

●現状・課題

- ・人口流入によって東京圏に人口が集中
- ・国際的に見ても首都圏への人口集中の割合が高く、さらに上昇傾向にある
- ・地方は人口減少の著しい地域が発生する見込み

●基本目標

- ・現状で年間10万人超の東京圏への人口流入に歯止めをかけ、東京圏と地方の人口の転出入を均衡させる

基本目標 3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

●現状・課題

- ・出生数は大きく減少
- ・就労形態（非正規雇用等）は配偶者の有無の割合に大きく影響
- ・未婚者の結婚意思は、9割程度の高い水準・理想の子ども数も2名以上。一方、合計特殊出生率は1.43となっており、理想と現実のギャップが存在

●基本目標

- ・若い世代が、安心して結婚・妊娠・子育てできるようにする

基本目標 4：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、

地域と地域を連携する

●現状・課題

- ・中山間地域・地方都市における人口減少に伴う生活サービス提供等、地域の維持・活性化への対応
- ・大都市における高齢化・単身化による医療・介護ニーズの拡大への対応
- ・老朽インフラ、空き家対応などストック対策 ・コミュニティ、ふるさとづくりへの対応

●基本目標

- ・「小さな拠点」の整備や「地域連携」の推進

2. 府中市の総合戦略の方向性（たたき台）

[課題認識]

①全国的な移動の縮小に影響を受ける

- ・人口減少の加速
- ・少子高齢化の加速
- ・生産年齢の減少
- ・年齢構成のアンバランス

②出生数が増えていない

- ・合計特殊出生率が高い、女性人口が多いというポテンシャルが生きていない

③人口構造のアンバランスが拡大

- ・少子高齢化
- ・年齢構成のアンバランス
- ・単身世帯の増加
- ・2060年には老年人口一人を、生産年齢人口1.85人で支える

④老年人口増加への対応

- ・団塊ジュニア世代の高齢化
- ・移動の縮小で高齢者が増加
- ・単身高齢者の増加（特に女性）

⑤コミュニティ衰退の懸念

- ・単独、2人世帯が60%超
- ・子世帯と同居・近居している高齢者世帯は多くない

⑥大企業立地の強みとリスク

- ・大企業が雇用を支える
- ・大企業の動向から受ける影響も大きい

本市の方向性 1：基盤産業の安定化・創出

【方向性】

- ・現状の基盤産業の安定を図るとともに、大企業撤退等のリスクに備えた新たな企業育成・雇用創出を図る。

【取り組み例】

- ・地域産業の競争力の強化（経営安定化、競争力強化等の支援）
- ・コミュニティビジネスの支援
- ・地域資源を生かした賑わい創出による中心市街地の活性化 等

本市の方向性 2：市に愛着を持つ人の定住促進

【方向性】

- ・市内で生まれ育った若者や市内への通勤者など、市に関わりがあり、なじみがある人に定住を促し、将来的な社会減の軽減・回避を図る。

【取り組み例】

- ・市内で働く従業員の市内居住の促進
- ・企業におけるワークライフバランス施策の推進
- ・ふるさと意識の醸成などによる定住促進 等

本市の方向性 3：出生数の増加

【方向性】

- ・女性の転入が多いというポテンシャルを出生数の増加につなげることで、将来的な自然減の軽減・回避を図る。

【取り組み例】

- ・子育て支援の強化
- ・若い世代の経済的支援
- ・親や親戚との近居支援 等

本市の方向性 4：地域や家族とつながりのある安心な暮らしの実現

【方向性】

- ・増加を続ける核家族や単身世帯が孤立せず、社会とかわりながら安心して暮らせる環境を実現する。

【取り組み例】

- ・地域コミュニティの活性化
- ・大学と連携した高齢者活躍の場の創出、高齢者の雇用創出
- ・子との近居支援 等